

地域林政対談 イン大隅

林業の成長産業化の実現に向けて林業を着実に発展させ、地域における雇用の場の創出と所得水準の向上をもたらす産業へと転換することが極めて重要な課題となっています。

このような中で、地域の森林・林業行政を牽引されている市町村長及び県関係者と九州森林管理局の林業関係機関が、各々の地域で実際に直面している具体的な課題について、同じ視点に立って今後の地域林業政策を展開していくことを目指して、情報交換や意見交換を行う懇談の場として「地域林政対談」を実施しています。

第十二弾は、森田俊彦南大隅町長、永野和行肝付町長にご参加いただき、地域林政の今後の展開や森林・林業の可能性などについて、意見交換を行いました。



稲尾岳



佐多岬

山は雇用を生む魅力ある資源である「肝付町長」

肝付町においては、高性能林業機械の導入等もあり、雇用の場が創出され、林業に就業する若い人が増えている。森林施業を着実に実施することで仕事を確保している。今後は、作業の無人化やドローンの活用等によって、さらに若者や女性が就業しやすい環境となることを期待している。

山をしっかりと守って、伐って利用するためには、路網の整備が必要である。昔は架線集材が主体だったが、今は車両系が主体。民有林と国有林が隣接する箇所ではしっかりと調整して路網整備を進めたい。

自分の山を知らないという状況が起きている。今後、所有者が不明な森林が増えてくると思う。国と自治体と民間が、それぞれやるべきことをやらなければならない。

山は雇用を生む魅力ある資源だと思う。また、稲尾岳並びに国見山周辺には照葉樹の原生林が残されている。そうした山が教育や産業で活かされるように、資源として有効に活用する方策を一緒に考えていきたい。林業分野は、町の地方創生施策の中でも重点的な取組として位置づけている。



永野和行 肝付町長

林業・木材産業が生き生きとした時代になってきた「南大隅町長」

大隅地域では林業成長産業化地域創出モデル事業が進められている。林業・木材産業が生き生きとした時代になってきた。そのような中で、需要と供給をどのように調整していくのが課題である。民有林と国有林を合わせた地域全体での調整が必要。市町村単位では難しく、フォレストアライアンス等によって広域で調整していく必要がある。

また、再造林、育林の低コスト化が課題である。3割程度の再造林率をどう上げていくか。獣害対策も含めて、全体的に考えていかなければならない。

稲尾岳周辺にはすばらしい照葉樹林がある。ここを観光やトレイル等で活用できないかと考えている。屋久島のように入林ルール等を作る必要があると思うが、一市

町村では難しいので、地域が一体となって取り組めないかと思っている。

改正森林法や森林環境税の導入により市町村の役割が増えていくが、それを担えるスタッフが不足しているのが現状であり、国有林のOB等を活用したい。



森田俊彦 南大隅町長

● ストーリー性を持たせた森林資源の活用を

現在、世界の観光需要を取り込み、地域の振興につなげていくという観光立国の推進に政府全体で取り組んでいます。その中で、森林・林業分野においては、森林資源を活かした観光資源の創出に取り組んでいます。

南大隅町長 稲尾岳周辺の照葉樹林について、何とか売り出したいが、乱開発はしたくないと思っている。活用方策について、南大隅町、肝付町、錦江町の3町で話をしているところ。

局長 稲尾岳周辺については保護林になっているが、環境教育等への活用にも適している。

南大隅町長 昔の植生がそのまま残っている。沢や滝もある。そのような中に遊歩道や散策路ができないか。今まで登山道などがないところで、ロングトレイルができるルートがつかれないかと思っている。

局長 国有林では屋久島等でそのような経験を積んできているので、ルールづくりも含めて連携して取り組んでいきたい。

肝付町長 貴重な野生動植物も生息、生育している。しかし、貴重な自然が残っていることを公表すると盗掘されるリスクも生じる。活用と保護のバランスが非常に難しいと思っている。

署長 稲尾岳周辺の森林資源の活用については、署も入って町や県の関係者間で情報の共有を始めたところであるが、「貴重なものがあります」という売り出し方は慎重にすべきと考えている。山の中に祠が残っているのも、そういったものを活用して何らかのストーリー性を持たせてガイドにそのようなところを案内してもらうのもよいのではないかと思う。

肝付町長 肝付町では三つの山岳を巡る「三岳参り」というのをやっており、ガイドが案内している。中高年が日帰りで行くルートであり、ルート周辺はボランティアが草刈りをしている。ストーリー性を持たせて活用するというのはよいと思う。

署長 海側から山に登る文化もあるので、

海と山のつながりに着目してもよいのではないか。神話の話がある地域もある。その方が広く一般の人にも受けるのではないか。

南大隅町長 最近、岩牡蠣の養殖を始めたところおいしいものができた。「照葉樹林が育てる岩牡蠣」という売り方もある。また、今後、インバウンドが増えるのではないかと思っている。その際、外国の登山愛好者などへ向けた整備が必要と考える。

局長 森林資源を活用して地域の収入に結びつけば良いと思う。木材利用だけではなく、様々な方法で地域振興に寄与したい。今後も情報を共有しながら、発展的に議論していきたい。



稲尾岳の照葉樹林(稲尾岳周辺森林生態系保護地域)

地域林政対談 イン 大隅

平成29年6月15日(木)15:00~17:00

大隅森林管理署会議室

出席者(敬称略)

○ 市町村長

森田 俊彦 南大隅町長

永野 和行 肝付町長

○ 鹿児島県 大隅地域振興局

中山 富士男 林務水産課長

○ 林野庁九州森林管理局

池田 直弥 九州森林管理局長

山口 輝文 大隅森林管理署長

勝沼 太志 九州森林管理局企画調整課長

